



子供と共に歩むさわやか先生

佐藤正子さん(教諭・中央通り)

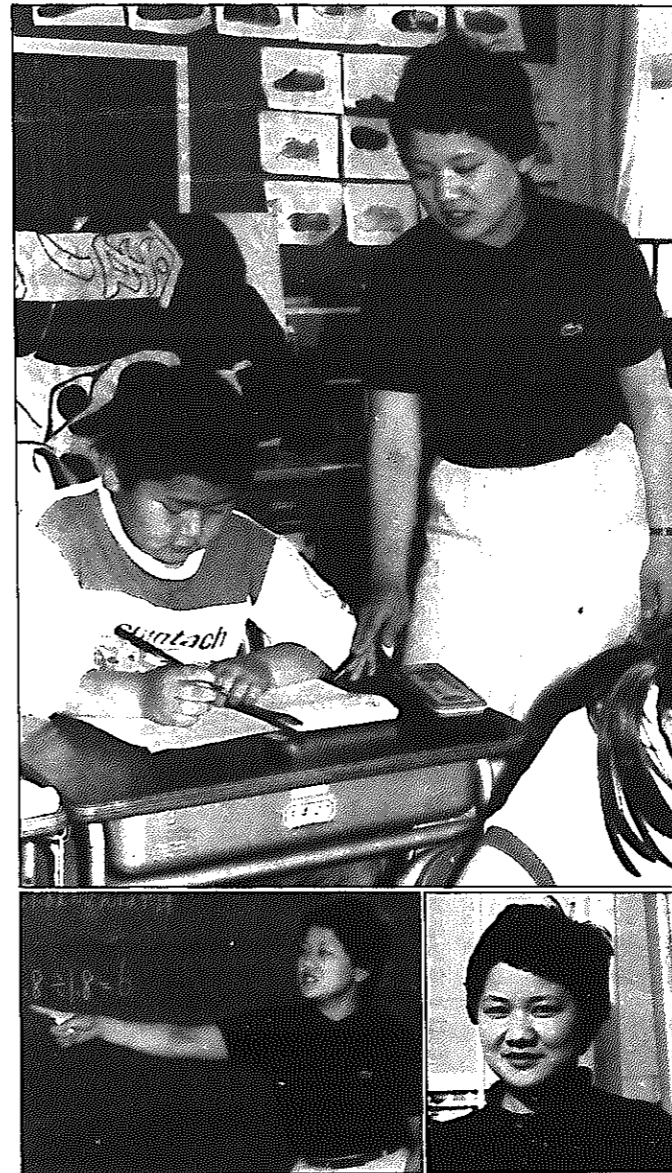
「初めて教壇に立ったときは、うまくやっていたかとても不安でした。でも、今は教師になって本当によかったと思っています」

白根小学校で五年四組を受け持つ佐藤先生は、明るく活発な女性。教師という職業は、中学生のときからのあこがれだったそうです。大学の教育学部で四年間みっちり勉強、五十五年四月に新任教師として白根小学校に勤務しました。

「明るく、さわやかな女性ですね。積極的に子供たちの中に溶け込もうとしています。風合戦のときなんか、子供と一緒に風をあげていますよ。一生懸命です」とさわやか先生です。

小関教頭は話しています。もちろん、子供たちにも人气的です。「先生の大きな声は、隣の教室にまで聞こえるんだ。そんな元気な佐藤先生が大好きなんです」と子供たち。

「つらかったこと？自分の気持ち子供たちに通じなかったときかな。それだけに、ただ教えるだけでなく、子供たちの立場に立って考え、一緒に学んでいきたいと思っています。先輩から、また子供たちからも教えられたことがたくさんあります」と話す佐藤先生。エッセイを読むことが大好きというさわやか先生です。



市民の広場

ぼくのあつせん

吉森秀司ちゃん(5歳11か月)
大郷児童館 忠和さん(37歳)
・上大郷



わたしのあつせん

星野由美子ちゃん(5歳7か月)
月・中央保育園 建一さん(33歳・水道町)



わが家のアイドル



増田孝子ちゃん(3歳)
正洋さんの長女=旭町

「女の子なんですが、とてもオンチャで、いつも男の子に間違われます。兄とけんかをする、泣かせてしまうんですよ。

そんな反面、ママごと遊びやうさぎのぬいぐるみが大好きで、女の子らしい面もあります。思いやりのある子に育ってほしいですね」

(母親・和子さんの話)



短歌

呻吟のベッドより見ゆ白山駅の朝
人まばらなり連休の朝

小林キミイ

俳句

水張りし田なれど蛙の声もなく
山菜が自慢料理の山の宿
栗守門残雪があり桃の里
代掻きの水丁度よく張られけり
老人の拭ける眼鏡や春埃
冬帽のままの地蔵や木の芽晴
一ツ岩四圍は五月の波を巻く
水温む小川の魚背を下に
花果てて異国の旅の花に会う
酌むほどに山盛蔵の山崩れ
鈴かけの咲くや恋う人待ち託びし
手さわりのやわき蓬を揺みしかな
独り居て亡妻思う日の余寒かな

石田 豊一
針貝 静男
石田 豊実
田中 昭一
真保 清三
中山 義英
西山 静江
桑原 平一
坪川桐太郎
牛腸 七郎
佐野 竹子
須戸 義夫
大旗 豊治

川柳

ジャンケンに弱い右手で鬼になる
春風に蕾も色づくセーラー服
肩書がほしい社長に暇も出来
ある日ふと蒸発大人のかくれんぼ
すれ違いドラマが逢えた春の駅
仏前へ明日咲く花を選る鉄
夜桜に寒さ忘れてる二人
満天の星を抱いてる水たまり
ほのぼのと明けタイマーで飯が炊け
潮時と孫にみつかるかくれんぼ
幸折る朝日が雲に欠けて見え
スーパの目玉で晩のメニュー決め

長井 徳市
本間 吾朗
山岡 フミ
今井 七郎
高橋祐四雄
後藤まさの
西條 ムラ
吉川 彰
中村 尚治
大井 義雄
米野 光男
岡村 清

母と子の会話

言葉のしつけ

身近な手本は家庭から

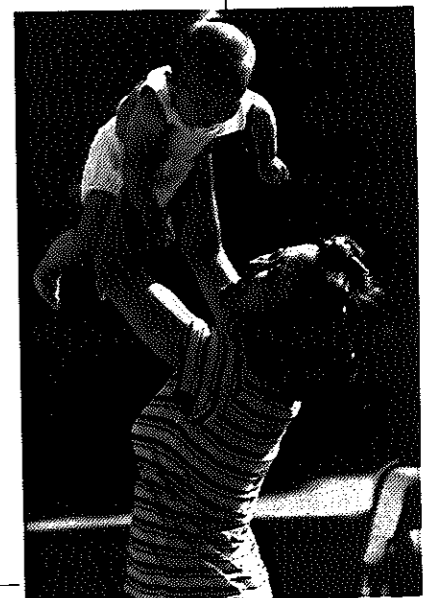
テレビなどの発達で、子供は自然に言葉を感じる機会が多く、耳から入るいろいろな言葉(単語)をどんどん吸収していきます。しかし、なんといい言葉もお母さんとの会話を通して、子供は、どんなときにどういう言葉を使うかという、その場の状況や感情と一体となった実のある表現を体得していきます。

ですから、子供は、まずお母さんを通して、さらにお父さんとお母さんのやりとりを聞きながら、言葉(の使い方)を身につけていきます。

一見、聞いていなさそうに見えても、子供は親の会話を腑で感じながら、自分なりの解釈で覚えていくことが多いのです。親同士のなに気ない会話も子供への影響を考えて、それなりの配慮をすることが大切です。

また、言葉には、それぞれの感情・心が伴います。「ありがとう」というときには、それにふさわしい態度、しぐさがあるはず。心から相手に感謝する心が働かなければ、「ありがとう」という言葉も生きてきません。

子供にとっては、お母さんの言葉遣い、そして家庭での会話、言葉学習するうえで身近なお手本といえるでしょう。



自転車の乗り方 間違つてませんか

交通安全教室を開催

自転車の正しい乗り方を身につけてもらおうと、四月十三日から市内の小中学校で交通安全教室が開かれました。

子供たちは白根警察署員、自転車安全指導員から安全な乗り方を聞いた後、市街地に出て交差点の進み方や一時停止の仕方などを実習しました。

町内会や事業所などで、自転車の正しい乗り方を教えてほしいという要望があれば、指導員が出向きます。申し込みは市民生活課消防交通係(☎022-119)へどうぞ。

